

32,000DWT 型撒積運搬船(SUPER HANDY32)

通常この製品紹介コーナーでは、新製品の紹介となるところだが、函館どつくが建造しているヒット商品であるスーパーハンディ 32 が、これまでのコンセプトを継承し新たに生まれ変わろうとしている節目を迎えており、ここに改めて紹介する。

この度、国土交通省北海道運輸局海事振興部から「発明・考案・改良・研究の功労功績」の表彰対象にスーパーハンディ 32 が候補にあがり、造船工業会会長の候補者推薦も頂き、これまでの開発・改良による功績が認められ、本年 7 月 16 日に国土交通省北海道運輸局長表彰を授与された。

本船誕生の経緯は、1996 年当時、それまで函館どつくが建造してきた 26,000DWT 型及び 28,000DWT 型木材/撒積運搬船のシリーズ船に代わる新たな船型の開発を、日本郵船株殿からの要請を受け、共同で開発コンセプトを練り上げたことにはじまる。

- ・ 当時としては、木材積船として最大級を目指す
- ・ 出入港時には二重底へのバラスト漲水不要を目指す
- ・ 積み地・揚げ地の岸壁水深制限の影響を減らす為に浅喫水を目指す
- ・ 最大の木材積みが可能となる船型とし撒積運搬船としての高い性能も併せ持つ事を目指す

これらのコンセプトを反映させた船が 1997 年 12 月 1 日に完工した。

その後、2002 年より、それまでのコンセプトは継承し、更にブラッシュアップを図るために名村造船所の協力を得て、最適船型の開発が始まり、スーパーハンディ 32 の誕生となった。そして 2004 年 5 月 28 日に第一船目が無事完工引渡された。その後、今日までに六十数隻がお客様に引き渡されてきた。

お客様からのクレームやアイディアに真剣に対応し、フォローや改善を積み重ねることにより、目には見えないノウハウや信頼が蓄積されてきた。現場での製造部門も、お客様の満足を得るための真面目なものづくり・取り組み姿勢に対し、船主監督からも高い評価を頂いている。また、各船の補償工事費が極めて少ないこともこれを物語っている。

これまで長年かけて築き上げてきたお客様との信頼関係は、名村造船所との新規共同開発船の 34BC にも引き継がれ、更に価値ある商品としてお客様に喜ばれる船を数多く建造できる可能性を秘めている。

そのためにも、真面目なものづくりで性能・使い勝手の良い船を提供し、「世界の函館」ブランドを目指したい。



本船写真

[主要目]

船 級	:	Nippon Kaiji Kyokai
全 長	:	約 175.50 m
型 幅	:	29.40 m
型 深 さ	:	13.70 m
夏季満載喫水 (型)	:	約 9.62 m
総 ト ン 数	:	約 19,850
載 荷 重 量	:	約 32,000 t
定 員	:	24 名